

縮小社会研究会 第5回総会

時：2017年3月11日（土）、11:00-12:00 所：京都大学 文学部新棟 第3講義室

地図：http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_y/の5と8の間の建物の2階

第39回研究会



時：同上 13:00-17:30、所：同上 参加費：非会員は500円

13:00-14:00 縮小社会構築のためのエコロジカル・フットプリントの貢献

和田喜彦（同志社大学教授） エコロジカル・フットプリント(EF)は90年代前半にカナダはブリティッシュ・コロンビア大学で開発された持続可能性評価指標である。近年、世界各地で活用が広まっている。EFを用いて「地球一個分の経済」を構築しようとするスイスの国民投票（2016年9月）がその象徴である。

14:15-14:45 縮小社会における「老成学」の必要性

入澤仁美（順天堂大学、兵庫医科大学） 老成学における「老成」とは、「老いの生き方」を不断に問い続け、意味づけ直すという再帰的なプロセスを指す。自らの経験と知恵を活用し、同世代同士の互助のみならず、次世代のために社会の全領域に渡って関与する「コミュニティ関与型老人」を提唱し、多世代に渡り持続可能な社会の実現を目指す。

15:00-17:30 特別セッション「縮小社会の啓蒙」

1. 縮小社会のロゴス：「崩壊」または「変貌」

大谷正幸（金沢美術工芸大学教授） 目下、一次エネルギー総供給量は2004年比1割強減という趨勢にあり、私たちは「崩壊」（テインター、オルロフ）か「変貌」（トインビー）かの岐路に立たされる。ダ・ヴィンチの「ウィトルウィウスの人体図」を用いて、衆生済度を試みる。

2. 縮小社会における人間の心と西洋思想、一認識論の変革が意識を変える—

山田武（人間存在研究所 研究員） 「西洋の合理主義と科学技術は、資本主義的経済発展の中で、どのようにして現代社会のグローバルな諸問題を生み出したか？ また、進行しつつある縮小社会の危機と混乱をどのように克服していくか？」

3. 「贈与」=交換関係について—社会展望としての意味—

青野豊一（人生二毛作 農業従事者） 「贈与=交換」という交換関係が、縮小社会における社会経済の主導的駆動力とすることができるか否か？ その意味と有効性を検討したい。私は今まで、このような理想理念を批判してきたが、・・・。

4. 「パネル討論」

懇親会：17:45 -19:30 費用：3000円

参加登録：下記の自動登録よりお願いします。

http://confreg.ate-mahoroba.jp/confreg?conf_idstr=xFl8mT7LaNsxP5q7GP8kQVJM929